

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ホテルサービスⅢ	(NGH24S)
講義名 (コード)	ホテルサービスⅢB	(NGH24SB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	高木 裕衣	時間数 30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	勤務歴：(株)プリンスホテル	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々なホテル業務と業界用語を理解し、ケースに応じ自分の言葉でサービスができる。
全体の内容と概要	1年次に学習した業務を発展させ、ケースごとの対応を自分で考え、敬語でサービスを実践する 2年間の学修で特定技能1号宿泊業の資格取得が可能な知識と技能を得る
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	日本のホテル・旅館の種類について理解できる	教科書の内容確認 ホテル・旅館の種類、組織図とキャリア形成
2	日本の観光ビジネスの現状について理解できる	特定技能1号宿泊業務対策 日本の観光ビジネスの概要
3	日本のホテル用語を知り企画業務の基礎を理解できる	特定技能1号宿泊業務対策 企画業務（集客・販売）、ホテル用語
4	日本のホテル用語を知り企画業務の基礎を理解できる	特定技能1号宿泊業務対策 企画業務（集客・販売）、ホテル用語
5	日本のホテル用語を知り広報業務の基礎を理解できる	特定技能1号宿泊業務対策 広報業務（広報チャンネル・著作権）、ホテル用語
6	日本のホテル用語を知り広報業務の基礎を理解できる	特定技能1号宿泊業務対策 広報業務（広報チャンネル・著作権）、ホテル用語
7	企画・広報業務を実践できる	特定技能1号宿泊業務対策 宿泊プラン作成・発表
8	企画・広報業務を実践できる	特定技能1号宿泊業務対策 宿泊プラン作成・発表
9	学習をふりかえりキャリアイメージを持てる	ホテル・旅館キャリアイメージレポート
10	ホテルのトラブル・クレームについて理解できる	防犯・非常時の対応について知り、実践する ホテルの施設管理・環境対応について知る
11	ホテルのトラブル・クレームについて理解できる	配慮の必要なお客様にはどのようなものがあるか意見を出す 具体的な配慮の方法を考え、敬語を使って実践する
12	ホテルのトラブル・クレームについて理解できる	クレーム対応 ケースに応じ、受容・報告・謝罪・再発防止の流れを確認する
13	ホテルのトラブル・クレームについて理解できる	クレーム対応 どんなクレームがあるか意見を出し、対応を検討し、発表する
14	まとめ	前期期末テスト
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	旅館ホテル・観光の教科書
参考文献・資料等	特定技能1号宿泊テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	接客マナー I		(NGH24U)
講義名 (コード)	接客マナー IA		(NGH24UA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	中村 真衣	時間数	30
成績評価教員	中村 真衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	実践に近いロールプレイングの接客練習を行い、即戦力になる人材を育てる
全体の内容及び概要	今までに学んできた接客の知識を活かし、お客様に感動を伝える接客を行えることができる
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	身だしなみを常に整える・携帯電話使用禁止・ビデオ撮影を行うこともある

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	接客について【復習】 1年次に学んだことをスムーズにできているか	オリエンテーション 1年次のテキストを用いシミュレーションを行い基本の接客態度ができているか実践をする。
2	お客様満足とは何かを理解し、丁寧な言葉遣いで案内をすることができるようになる	サービスマインドとセールスマインド (第一章) 接客の基本はお客様満足 お客様満足の意味やお客様の立場に立った対応を学ぶ
3	接客とは？サービスとは？ 細かな違いを理解し実践できるようになる	サービスマインドとセールスマインド (第一章) 接客の基本はお客様満足 接客とサービスの違いを理解させ「接客サービス」ができるようになる
4	お客様に対する気持ちを具体的な形に表すことができる	サービスマインドとセールスマインド (第一章) 接客の基本はお客様満足 お客様が満足できるようなアドバイスができるようになる
5	接客者として働くというを理解する	サービスマインドとセールスマインド (第2章) 真の接客をめざす 働くことの意味を理解し、接客の仕事に誇りをもち、お客様へ感謝の気持ち
6	接客の心得を習得し、接客者として何が 필요한のかを理解することができる	サービスマインドとセールスマインド (第2章) 真の接客をめざす 接客者としての責任感・意識・マナーの理解に努める
7	真の接客とは何か、実践を通し理解することができる	理解度チェックとケーススタディを考える ケーススタディを実践する力を養う
8	社内のマナーを理解し、心地よいコミュニケーションをとることができる	接客マナーの基本 (第3章) 就業時のマナーと接客時のマナー 就業時のマナーとは何かを理解し、ウチとソトの使い分けが自然とできるようになる
9	好印象を与えるポイントを学習し、相手にいい印象を与えることができるようになる	接客マナーの基本 (第4章) 好印象を与えるポイント よい印象を与えるポイント(第一印象基本5原則)を復習し、美しい立ち居振る舞いができるようになる
10	自ら身だしなみを適切なものに整えることができる	実際にYシャツ・ジャケットを持参させ、身だしなみを整えてもらいフィードバックを行う
11	気持ちのこもった言葉遣いや挨拶ができるようになる	接客マナーの基本 (第5章) 接客の言葉遣い 接客10大用語を理解し、声に出し練習をする
12	正しい敬語を使い気落ちの良い対応ができるようになる	接客マナーの基本 (第5章) 接客の言葉遣い 正しい敬語を理解し、声に出し練習をする 心配りや感じのよい言葉遣いができるようになる
13	言葉遣いの理解度チェックを行い間違いに気づくことができる	間違った敬語や言葉遣いを理解し、使い分けができるようになる
14	前期で学習したことを実践することができる	テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	【改訂版】接客サービス基本テキスト
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	旅行業務Ⅲ	(NGH25A)	
講義名 (コード)	旅行業務ⅢA	(NGH25AA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	(株)JTB中部	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	JRの料金や航空券の予約・取り消しの規定を理解し、 お客様に正しい案内ができるようになる
全体の内容と概要	お客様にどのように案内するかを意識しながら 旅行業務取扱管理者の内容から実務でよく使う内容を学ぶ。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	理解度を測るため毎授業で小テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	旅行業界と旅行業務とは何かを学習する	旅行会社の種類、仕事内容、採用について紹介する
2	旅行業務とは何かを学び必要なスキルを考えられる	旅行会社での業務内容を紹介 自分だったらどの部署でどんな仕事ができそうかイメージする
3	企画旅行・手配旅行の違いを学び、旅行業について理解を深める	企画旅行契約・手配旅行契約の変更や解除に関する約款を座学
4	宿泊契約の申し込みについて拒否・解除など理解する	モデル宿泊約款について学び、ロールプレイングなどで約款にあてはまるか判断する
5	JRの料金について理解する	JRの料金の基本を学ぶ。時刻表などから読み解く練習をする
6	JRの料金について理解する	JRの料金の特例を学ぶ。時刻表などから読み解く練習をする
7	新幹線の線路、日本の主な路線 主要な駅名を覚える	新幹線の線路、日本の主な路線、主要な駅名について読み方乗り継ぎについて
8	国内の航空運賃・料金について理解する	JALとANAの運賃を比較し、実際のeチケットから取り消し料金を計算する
9	貸し切りバス・フェリーの運賃について理解する	貸し切りバス・フェリーの運賃について学ぶ
10	【国内】観光資源と空港3レターを覚える	【国内】観光資源と空港3レター、有名なホテルや温泉地など学ぶ
11	【国内】観光資源と空港3レターを覚える	【国内】観光資源と空港3レター、有名なホテルや温泉地など学ぶ
12	【国内】観光資源と空港3レターを覚える	【国内】観光資源と空港3レター、有名なホテルや温泉地など学ぶ
13	期末テストの準備	期末テストの準備
14	期末テスト	授業のまとめテスト
15	フィードバック	後期授業の内容 説明

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	観光マーケティング実践 I	(NGH25C)
講義名 (コード)	観光マーケティング実践 I A	(NGH25CA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	観光客の消費行動を理解し、地域の魅力を戦略的に発信する実践力を養う。ターゲット設定、シスル感を伝える動画撮影・編集技術、そして来店へ繋げる導線設計を習得し、地域資源をプロモーションできる基礎力を身につける。
全体の内容と概要	信州上田の地域資源をモデルケースに、リサーチから動画制作、提案までを一貫して行う。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業のゴールと全体像の説明
2	観光客の行動心理（導線）	旅行者の行動フェーズに応じた適切な情報提供の重要性を理解する
3	地域資源のリサーチと分析	信州上田をモデルに、競合と比較した「自地域の強み」を再発見。隠れた魅力を言語化する。
4	ユーザー目線での情報収集体験	自分が旅行者になりきりSNSやマップで検索。選ばれる投稿とスルーされる投稿の差を分析。
5	観光ターゲットとコンセプト立案	「誰に・どんな体験を」提供するか。ターゲット（ペルソナ）の欲求に寄り添った発信軸の決定。
6	プラットフォームの使い分け戦略	Instagram、Googleマップ、YouTube等、媒体ごとの役割分担と連携戦略。
7	情緒に訴える観光ライティング	単なる説明文ではない、読者が「その場にいる自分」を想像できるベネフィットの書き方。
8	【実践】スマホ撮影技術（静止画）	被写体の魅力を引き出す構図、光、シズル感。SNSで目を引く写真の撮り方。
9	【実践】スマホ撮影技術（動画）	ショート動画用の素材収集・カメラワークのコツ。
10	【学外実践】フィールド撮影(1)	実際の地域資源（店舗やスポット）へ訪問し、素材を収集。現場での取材・撮影実習。
11	【学外実践】フィールド撮影(2)	〃
12	動画編集（1）	収集した素材を繋ぎ、BGMに合わせたテンポの良い「行きたくなる」動画のカット編集。テロップ挿入や世界観の調整。
13	動画編集（2）	〃
14	最終設計	補足情報の追加や、地図への紐づけ、ハッシュタグ選定など
15	成果発表	制作した動画をプレゼンテーション

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定試験対策 I		(NGH25E)
講義名 (コード)	検定試験対策 I A		(NGH25EA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数	30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス接客検定受験に必要な知識を学び、実践できるようになる
全体の内容と概要	日本における接客サービスを深く理解するとともに、日本の暦や食文化、言語文化を学び、接客に生かせるように実践的に練習する。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	サービススタッフの資質について理解できる	サービススタッフとして備えるべき資質、心得るべき要件を学び、実践できるようにする
2	サービススタッフの資質について理解できる	サービススタッフとして備えるべき資質、心得るべき要件を学び、実践できるようにする
3	サービスの専門知識を理解できる	サービスの知識（意義・機能・種類）を全体的にとらえ、サービスはなんのためにするのかを明確にする
4	サービスの専門知識を理解できる	サービスの知識（意義・機能・種類）を全体的にとらえ、サービスはなんのためにするのかを明確にする
5	サービスの対人技能を理解できる	対人技能として適切な敬語や、話題の選択、相手の立場になった説明方法を考え、実践する
6	サービスの対人技能を理解できる	対人技能として適切な敬語や、話題の選択、相手の立場になった説明方法を考え、実践する
7	サービスの実務技能を理解できる	サービス業に付随する決済業務・クレーム対応・社交業務について学び、サービスに生かすことができるようにする
8	サービスの実務技能を理解できる	サービス業に付随する決済業務・クレーム対応・社交業務について学び、サービスに生かすことができるようにする
9	サービスの一般知識を理解できる	日本の伝統文化・年中行事・言語文化や時事問題を学び、サービスに生かすことができるようにする
10	サービスの一般知識を理解できる	日本の伝統文化・年中行事・言語文化や時事問題を学び、サービスに生かすことができるようにする
11	サービスの一般知識を理解できる	和食の知識（歴史・コース料理・食事マナー・和室マナー）を学びサービスに生かすことができるようにする
12	サービスの一般知識を理解できる	和食の知識（歴史・コース料理・食事マナー・和室マナー）を学びサービスに生かすことができるようにする
13	サービスの一般知識を理解できる	和食の知識（歴史・コース料理・食事マナー・和室マナー）を学びサービスに生かすことができるようにする
14	まとめ	サービス接遇検定試験模擬テスト（前期期末テスト）
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サービス接遇検定試験合格テキスト&問題集、旅館ホテル・観光の教科書
参考文献・資料等	特定技能1号外食テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定試験対策 I	(NGH25E)	
講義名 (コード)	検定試験対策 I B	(NGH25EB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	柄澤 郁子	時間数	30
成績評価教員	柄澤 郁子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年次学習したWordの機能を活用し実務に使えるレベルに到達させ 社内文書や報告書を正確かつ迅速に作成できる
全体の内容と概要	実務で頻出する報告書や議事録などの文書作成・編集・管理の課題を題材に テンプレート作成、書式の運用などの実践的スキルを習得する
授業時間外の学修	ビジネス文書のフォーマットを覚えて、構成・必須項目・書式を理解し、 状況に応じて正しく作成できるようになりましょう。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	ご案内文書作成（あいさつ文機能）
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	連絡文書作成（表の利用）
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	オブジェクトを活用した文書作成（図形・SmartArt）
8	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 1 配置の設定・文字書式の変更，設定・定型文の入力・段落番号の設定
9	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	・保存，表の配置設定・図形の装飾
10	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存
11	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
12	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 3 配置の設定・文字書式の変更，設定・段落番号の設定・保存
13	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	・インデント設定，表の編集・図形の装飾，配置，文字の入力
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	国際理解 I	(NGH25H)
講義名 (コード)	国際理解 I A	(NGH25HA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高橋 亨	時間数 30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、様々な国の人達との円滑かつ効果的なコミュニケーションを行うことができるようになる
全体の内容と概要	世界の国々の歴史や現状をテキストに基づき学ぶとともに、世界的な課題提起「SDG s」の進捗状況などをグループワーク等を活用して学ぶ
授業時間外の学修	様々な国の方との交流を通じ相互理解を深める
履修上の注意事項等	各授業の最後に確認テストを実施する予定

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率 70%以上で期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる 各国の位置関係が理解できる	本授業の意図と習得する知識・現段階における知識レベルの把握 ・世界地図を参考に世界の国々の位置関係やエリアを学ぶ
2	国際機関・団体を理解できる	・国際的な機関や団体の種類と業務内容について学ぶ 【グループワーク】 設立背景や主な活動などの調査発表
3	世界の地理を理解できる	・各大陸の呼称や構成国について学ぶ 【セルフワーク】 各大陸の成り立ちや地形の変化を調査する
4	エリアの特徴を理解できる ①	・ヨーロッパ、アジア、アフリカの特徴について学ぶ 【グループワーク】 各エリアの構成国や文化について調査する
5	エリアの特徴を理解できる ②	・南北アメリカ、オセアニア、南極の特徴について学ぶ 【セルフワーク】 各エリアの構成国や文化について調査する
6	前期中間テスト	前期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・実技）
7	世界の現状を理解できる①	・世界の気候や天気など生活にかかわる特徴について学ぶ 【グループワーク】 人口や言語の違いについて調査する
8	世界の現状を理解できる②	・各国の平均所得や生活レベルについて学ぶ 【セルフワーク】 主要産業や働く上でのルールなどについて調査する
9	世界の現状を理解できる③	・世界の貿易の現状と輸出入の実情について学ぶ 【グループワーク】 様々な資源やエネルギーの現状について調査する
10	世界の現状を理解できる④	・世界の産業（農業・商業・工業）の特徴について学ぶ 【セルフワーク】 年間生産量や特産品について調査する
11	世界の文化を理解できる①	・スポーツの国技性や多様な食文化について学ぶ 【グループワーク】 オリンピック競技の変遷について調査する
12	世界の文化を理解できる②	・世界遺産の種類や選定基準、認定施設等について学ぶ 【セルフワーク】 世界遺産に認定されるメリットとデメリット
13	世界の文化を理解できる③	・世界の祭りや風習について学ぶ 【グループワーク】 お祭りの起源や類似性について調査する
14	前期末テスト	前期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・実技）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「地図でよくわかる世界の国大百科」「こどもSDGs 達成レポート」
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	国際観光学 I	(NGH25I)
講義名 (コード)	国際観光学 I B	(NGH25IB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小林 心花	時間数 30
成績評価教員	小林 心花	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	(株) JTB中部	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際観光の基本的な知識を学び、日本や世界の観光の特徴を理解し、観光業で働くための基礎的な考え方を身につける。
全体の内容と概要	世界の観光資源や活用方法、特徴などを日本の事例も交えながら学ぶ。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	毎授業で理解度確認テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	日本から海外への旅行について説明できるようになる	日本から海外へ旅行する目的や年齢層など学ぶ 人気の国やツアーの紹介
2	世界の海外資源について学ぶ①	写真や動画で[世界遺産]について学ぶ
3	世界の海外資源について学ぶ②	写真や動画で[世界遺産]について学ぶ
4	世界の海外資源について学ぶ③	いろいろな [世界で一番]なことを学ぶ
5	世界の海外資源について学ぶ④	アジアの観光地・文化について学ぶ
6	世界の海外資源について学ぶ⑤	アジアに関するツアーを調べる 日本で人気なツアーの内容などをまとめる
7	世界の海外資源について学ぶ⑥	ヨーロッパの観光地・文化について学ぶ
8	世界の海外資源について学ぶ⑦	ヨーロッパに関するツアーを調べる 日本で人気なツアー内容などをまとめる
9	世界の海外資源について学ぶ⑧	アメリカの観光地・文化について学ぶ
10	世界の海外資源について学ぶ⑨	アメリカに関するツアーを調べる 日本で人気なツアーや価格などをまとめる
11	世界の海外資源について学ぶ⑩	アジア・ヨーロッパ・アメリカの復習
12	自分の出身国の観光資源をまとめる	世界の観光資源を学び、自分の出身国にはどのような観光資源があり、活用できているか学ぶ
13	期末テスト	今まで学んできた知識の再確認と発表の準備を進める
14	期末テスト	出身国の観光資源について発表する
15	期末テスト	出身国の観光資源について発表する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーション I	(NGH25K)
講義名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーション IA	(NGH25KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小林 心花	時間数 30
成績評価教員	小林 心花	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	原稿用紙を正しく使い原稿をかくことができる。自分の意見を正しい日本語でスムーズに話せるようになる。相手の意見を聞きディベートができるようになる。
全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をまずは原稿にし、スピーチで表現する。 原稿用紙を正しくつかい長文を書く。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	時間内にスピーチすることや内容を伝えることの難しさを意識する	いろいろなスピーチを見て1分間スピーチを試みる
2	声のトーンやスピードで印象が変わることに気づく	いろいろなアナウンスを聞き比べてみる
3	正しく読むことを意識する	アナウンスや短い文章を正しい発音で読む
4	正しく原稿用紙を使うようになる。長文の書き方を覚える	原稿用紙の正しい使い方と文章の書き方を学ぶ
5	長文を書くことに慣れる	テーマを選んで指定文字数に自分の意見をまとめる
6	長文を書くことに慣れる	テーマを選んで指定文字数に自分の意見をまとめる
7	前を向いて堂々と発表ができるようになる	原稿を見ずに発表をする練習をする
8	長文を書くことに慣れる	テーマを選んで指定文字数に自分の意見をまとめる
9	発表をみて感想や改善点がわかりやすく伝えられる	自分以外の発表と自分の発表を振り返って感想、改善点を見直す
10	自分でテーマを決められるようになる	自らテーマを決め自由に長文を書く 400～800文字くらい
11	自分の考えや伝えたいことが書けるようになる	自らテーマを決め自由に長文を書く 400～800文字くらい
12	ディバートのルールやディバートに慣れる	動画を見ながらディバートの概要を説明する
13	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えられるようになる	様々な題材でディバートする
14	期末テスト 準備	3分間 スピーチの原稿作り
15	期末テスト	3分間 スピーチ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅲ		(NGH25M)
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅢA		(NGH25MA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス日本語の中級レベルを理解する。7月にJLPTでN3取得し、12月にN2も目指す。前期で就職内定をもらう。
全体の内容と概要	前期は、テキスト前半（第1課～6課）まで学習する。
授業時間外の学修	ほうれんそうを実践する習慣をつくる。約束や時間を守ることを徹底する。
履修上の注意事項等	目上の人に対する日本語表現が自然にできるようになること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介ができる。JLPTのN3の受験を促す。	オリエンテーション、アンケート調査、アルバイトの探し方とハロワの活用紹介、自己紹介、テキスト紹介など
2	第1課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの依頼ができる。
3	第1課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの依頼が完全にできる。
4	第2課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルのアポ取りができる。
5	第2課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルのアポ取りが完全にできる。
6	第3課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの謝罪ができる。
7	第3課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの謝罪が完全にできる。
8	第4課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの感謝ができる。
9	第4課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの感謝が完全にできる。
10	第5課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの紹介ができる。
11	第5課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの紹介が完全にできる。
12	第6課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの挨拶ができる。
13	第6課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの挨拶が完全にできる。
14	1-6課の復習をする。	前期で学んだ内容の練習問題で合格点が取れる。
15	前期試験を概略できる。	理解不足、間違えた個所が理解できる。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	外国人のためのケーススタディで学ぶビジネス日本語
参考文献・資料等	政府の最新の外国人政策に関するニュースや情報提供、関係するYou Tube視聴
備考	前期でできるだけ就職内定がもらえる工夫を伝授する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング実践 I	(NGM22C)
講義名 (コード)	Webマーケティング実践 I	(NGM22CX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎概念を理解し、Canvaを用いてターゲットに刺さるSNS投稿・広告・販促物等を、一貫性のあるデザインで作成できる。
全体の内容と概要	認知から成約までを繋ぐ「Web上の導線設計」を体系的に学び、ビジネス現場で即戦力となる一気通貫の設計・制作スキルを習得します。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方Canvaの基本操作（ログイン、写真の配置、文字入力）を体験。
2	Canvaによる自己紹介ページ制作	自分の特長や強みを視覚化し、自己紹介シートを作成する。
3	Canvaの基本操作(1)	テンプレートの選び方、基本ツールの使い方等
4	Canvaの基本操作(2)	写真の加工、背景削除、図形の活用。
5	Web上の導線設計（全体像）を学ぶ	集客から成約までの「地図」を描く。SNS・広告・HP・チラシがそれぞれのフェーズで機能するか、全体の流れ（カスタマージャーニー）を理解する。
6	SNS投稿のデザイン(1)	Instagram投稿・ストーリー作成。スマホで「目が止まる」フックの作り方。
7	SNS投稿のデザイン(2)	複数枚投稿のストーリーテリング。保存される「役に立つ」コンテンツ制作。
8	Web広告の仕組みと配信設計	広告のアルゴリズムとターゲティングの仕組みを理解し、目的に応じた「配信設計（誰に・どこで）」を立案できる。
9	公式LINEとリッチメニュー	Canvaでのリッチメニュー制作と設置イメージ。
10	リアル媒体からWebへの誘導	ポスター制作。紙面での視線誘導とキャッチコピー、QRコードの効果的な配置。
11	集客戦略の立案（コンセプトワーク）	決めたテーマに対し、「誰に・どの媒体で・どうやって」集客するか、導線設計図を完成させる。必要な制作物（SNS広告、チラシ、バナー等）のリストアップ。
12	制作(1)：集客パーツの制作	導線の入り口となる制作物の作成。SNS投稿用クリエイティブ、WEB広告バナー、QRコード付きポスターなど、Canvaを用いて一貫通貫のデザインを行う。
13	制作(2)：成約パーツの制作	集客した後に見せる詳細情報（公式LINEリッチメニューやチラシの裏面など）の制作。
14	最終ブラッシュアップと発表準備	全ての制作物を並べ、導線がスムーズに繋がっているかセルフチェック。プレゼン資料の作成（ターゲット、狙い、期待する効果の言語化）。
15	試験・成果発表	全制作物を発表。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅲ	(NKT24U)	
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅢA	(NKT24UA)	
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス分野を想定した基礎的なビジネス英語を学び、業務場面での自己紹介、情報確認、案内などが英語でできるようになることを目標とする。
全体の内容と概要	自己紹介や名前の確認、場所の案内など、業務の基本となる英語表現を用いた実践的な練習を行う。
授業時間外の学修	授業で扱った表現を復習し、音声を用いた発音練習や音読を行うこと。
履修上の注意事項等	授業は実務対応を意識した演習を中心に行うため、積極的に参加し、間違いを恐れず英語を使用すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業で用いられる基本的な英語指示を理解し対応できるようになる	Classroom English、オリエンテーション
2	接客・業務を意識した自己紹介が簡潔にできるようになる	Unit1 Speaking About Yourself
3	相手の名前を丁寧に確認し、正確に対応できるようになる	Unit2 Could I Have Your Name, Please?
4	施設や部屋の場所を分かりやすく案内できるようになる	Unit3 Your Room Is on the 12th Floor
5	初対面の顧客に対して基本的な受け答えができるようになる	Unit1 会話練習
6	名前や情報を確認し、業務上の聞き返しができるようになる	Unit2 会話練習
7	場所・方向を業務場面で正確に説明できるようになる	Unit3 会話練習
8	Unit1～3の表現を用いて基本的な接客対応ができるようになる	Review Units 1-3
9	接客場面の英語を聞き取り必要な情報を理解できるようになる	リスニング練習
10	基本的な接客シーンを想定した対応ができるようになる	ロールプレイ演習
11	相手に配慮した表現を用いて応答できるようになる	応用会話練習
12	一連の基本的な接客対応を英語で行えるようになる	総合会話練習
13	試験に向けて重要表現を業務場面で使えるようになる	総復習
14	春学期の学習内容を業務英語として活用できるようになる	期末テスト
15	自身の課題を把握し、改善点を理解できるようになる	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Speaking of Hospitality
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス翻訳 I		(NKT25A)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳 IA		(NKT25AA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簡単な商談が英文メールでできるようになる (問い合わせ、クレーム処理、アポイント、案内、通知)
全体の内容と概要	春学期に英文メールの和訳、秋学期に日本語を英文メールにする演習を行う
授業時間外の学修	授業で学んだビジネス特有の表現、単語を復習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	翻訳業務の概要を理解する	1. 翻訳業務の概要 (3種類- 実務翻訳 (ビジネス翻訳)、出版翻訳、映像翻訳) →具体的にどんな仕事につながるのか 2. テキスト説明 3. 内容を簡潔にまとめる練習
2	英語の履歴書が作成できる	ひな型をまねて作ってみる
3	問い合わせの英文メールを理解できる	英文メールの基本、会社名、役職名、部署名の英語表記、テキスト Words & Phrases + 例文説明+ 英語の短文メールを書いてみる
4	見積もり以来の英文メールが理解できる	数字、日付を正確に読む+書く練習、テキスト Words & Phrases + 例文説明+ 英語の短文メールを書いてみる
5	発注依頼の英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む+書く練習、テキスト Words & Phrases + 例文説明+ 英語の短文メールを書いてみる
6	商品受領の英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む+書く練習、テキスト Words & Phrases + 例文説明+ 英語の短文メールを書いてみる
7	支払いに関する英文メールが理解できる	納期、金額、単位を正確に読む+書く練習、テキスト Words & Phrases + 例文説明+ 英語の短文メールを書いてみる
8	契約に関する英文メールが理解できる-2	助動詞の使い分け： can, may, must, shouldのビジネス上の強さの違い
9	さまざまな業務依頼の英文メールが理解できる	仕事の依頼、応じる、断る、以来に対するお礼
10	各種申請の英文メールが理解できる	許可の申請、対応、断る、申請対応へのお礼
11	会議の英文案内メールが理解できる	開催通知、出席、欠席
12	イベントの案内英文メールが理解できる	連絡、出席、欠席、招待へのお礼
13	総復習	プリント
14	期末テスト	テスト
15	まとめと解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英文ビジネスEメール実例・表現1200
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅲ	(NKT25C)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅠA	(NKT16IA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年 1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC5000点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅢ	(NKT25E)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅢF	(NKT25EF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者		時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1 学年で学習したExcelの基本操作をさらに深め、データを整理・分析する力をつける
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、実務で活用できる集計・報告資料を作成する
授業時間外の学修	計算や関数など新しく学習します。くり返し練習して正確に使えるようにしましょう。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	条件判定と比較演算子の意味を理解できる	IF関数① IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
2	関数のネスト方法を理解できる	IF関数② 2つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
3	条件判定や集計を自動化し正確な売上表を作成できる	IF関数を使った売上表の作成
4	条件に基づく集計を自動化し正確な売上表を作成できる	COUNTIF関数・SUMIF関数を使った販売実績表の作成
5	グラフによる可視化を含めて正確に集計・分析した結果を作成できる	学習した関数を活用した表からグラフを作成する練習問題①
6		学習した関数を活用した表からグラフを作成する練習問題②
7	データベースの検索と抽出ができる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
8	視覚的なデータの把握と管理ができる	カラスケール・データバー・アイコンセット他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法
9		
10		これまで学習した内容の練習問題
11	データを正確に集計・可視化し作成できるようになる	・基本の計算式、関数 ・グラフの編集 ・データベース分析（並べ替え・フィルタ） ・条件付き書式の活用
12		
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel2021
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅢ	(NKT25G)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅢA	(NKT25GA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパース代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介・前期の内容について説明 【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエントリー、マイナビ活用方法説明 【演習】キャリアスUCエントリー、マイナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活動計画作成	【就職活動スケジュール説明】就職に必要な書類、スキル、準備物 【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・外的キャリアを考える方法 【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の長所を見出し、自己理解、自己PR書作成に活用 【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自分の長所から自己PR書に落とし込む 【演習】自己PR書作成200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】企業研究 進路手帳ワークブック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どんな仕事に興味があるか？どんな会社か？ 【演習】興味がる仕事、会社の研究シート作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、ポイントについて 【演習】面接に向けた行動計画と準備、行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する（1）	【面接について】基本スキルの確認、集団面接、個別面接、グループディスカッション【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する（2）	【面接】悪い面接マナー説明、服装、挨拶、言葉遣い、姿勢 【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習 評価項目について 【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士で評価並びに講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業への応募、連絡方法について 【演習】インターンシップ計画表作成（進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	フィードバック	テストの振り返り・フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅢ	(NKT25G)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅢF	(NKT25GF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	若林 繁実	時間数 30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介,前期の内容について説明 【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエントリー、マイナビ活用方法説明 【演習】キャリアスUCエントリー、マイナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活動計画作成	【就職情報説明】就職活動スケジュール説明：就職に必要な書類、スキル、準備物【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・外的キャリアを考える方法 【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出し、自己理解、自己PR書作成に生かす。【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自分の長所から自己PR書に落とし込む【演習】自己PR書作成 200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】企業研究 進路手帳ワークブック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どんな仕事に興味があるか？どんな会社か？【演習】興味がる仕事、会社の研究シート作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、ポイントについて 【演習】面接に向けた行動計画と準備、行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する（1）	【面接について】基本スキルの確認 集団面接、個別面接、グループディスカッション 【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する（2）	【面接】悪い面接マナー説明 服装、挨拶、言葉遣い、姿勢 【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習 評価項目について 【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業への応募、連絡方法について 【演習】インターンシップ計画表作成（進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト F.B】

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プロジェクト演習	(NKT25I)
講義名 (コード)	プロジェクト演習A	(NKT25IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	小林 心花	時間数 30
成績評価教員	小林 心花	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	プロジェクト学習を通して、問題点の追求とその解決策を考える力をつける
全体の内容と概要	問題発見と解決のためのプロセスを学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	問題発見と課題発見の違いを理解できる	様々なシーンを見て、問題と課題について考える
2	プロジェクトに進め方を理解できる	架空のストーリーをもとに問題を考え、その課題、解決案を導き出す
3	身の回りの問題、課題について考えることができる	身の回りで問題はないか思い返し、その課題、解決方法について考える
4	身の回りの問題、課題について考えることができる	実際に解決策を試して、適切だったか、改善策はあるか再考する
5	問題解決のためにどのような情報が必要が見極めることができる	どのようなデータが必要か、どのようなフィールドワークが必要か検討し計画を立てる
6	必要な情報を得られる	フィールドワーク
7	必要な情報を得られる	フィールドワーク
8	必要な情報を得られる	フィールドワーク
9	必要な情報を得られる	フィールドワーク
10	情報をまとめることができる	グループごとにまとめる
11	情報をまとめることができる	グループごとにまとめる
12	情報をわかりやすく伝えることができる	発表準備
13	情報をわかりやすく伝えることができる	発表準備
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ	(NKT25M)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ A	(NKT25MA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小須田 代吉	時間数 30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解したうえで、場面に応じて文法、語彙を使い分け、コミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「説明書き」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 1	読解：ABCギフト券 聴解：発音に関する聞き取り
2	「表・リスト」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 2	読解：例題 2 0、練習 5 0 聴解：文法に関する聞き取り①
3	実践問題が理解できる 1 「準備しよう」が理解できる 3	読解：中文理解 例題 2 1 聴解：文法に関する聞き取り②
4	実践問題が理解できる 2 「準備しよう」が理解できる 4	読解：中文理解 練習 5 1、5 2 聴解：会話表現
5	実践問題が理解できる 3 「準備しよう」が理解できる 5	読解：中文理解 練習 5 3、5 4 聴解：まとめ問題
6	実践問題が理解できる 4 問題の パターンに慣れよう 1	読解：内容理解（長文）例題 2 2 聴解：どんな返事をしますかー即時応答
7	実践問題が理解できる 5 問題の パターンに慣れよう 2	読解：内容理解（長文）例題 2 3 聴解：このあと何をしますかー課題理解
8	実践問題が理解できる 6 問題の パターンに慣れよう 3	読解：内容理解（長文）練習 5 5 聴解：どうしてですかーポイント理解
9	実践問題が理解できる 7 問題の パターンに慣れよう 4	読解：主張理解（長文）例題 2 4 聴解：どんな内容ですかー概要理解
10	実践問題が理解できる 8 問題の パターンに慣れよう 5	読解：主張理解（長文）練習 5 7 聴解：どうすることにしますかー統合理解①
11	実践問題が理解できる 9 問題の パターンに慣れよう 6	読解：主張理解（長文）練習 5 8 聴解：どれにしますかー統合理解②
12	実践問題が理解できる 10 問題 のパターンに慣れよう 7	読解：主張理解（長文）練習 5 9 聴解：まとめ問題
13	実践問題が理解できる 11 いろ いろなタイプの話の聞こう 1	読解：統合理解 例題 2 5 聴解：情報を聞こう
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスターN1読解 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ	(NKT250)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ A	(NKT250A)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小須田 代吉	時間数 30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、 コミュニケーション力を高めるとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる1	文法：～ところ(を) ～の至り、～をもって 語彙：文脈規定1
2	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる2	文法：～こととて ～にたえない ～たる 語彙：文脈規定2
3	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる3	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定3
4	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる1	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/~ばそれまでだ 語彙：文脈規定4
5	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる2	文法：～ものを、～ときたら、たところで 語彙：文脈規定5
6	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる3	文法：～(よ)うが、～(よ)うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定6
7	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる4	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定7
8	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる1	文法：～といったらない、～(よ)うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定8
9	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる2	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定10
10	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる1	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、 語彙：文脈規定11
11	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる2	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定12
12	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる3	文法：～をもものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定13
13	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる1	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、 語彙：文脈規定14
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	文字語彙：ドリル&ドリルN1 文法：TRY N1
参考文献・資料等	
備考	